

学園点描

朝あいさつ運動をしていると、空には白鳥の北帰行が見られます。V字の隊列で飛ぶ姿にも個性が見られます。

《H学園》

NO.1

R7. 4. 9

担当：校長

今年4月より、本校の校長として赴任しました高橋晋也と申します。10年前には、市の教育委員会に在職しながら小中一貫教育校のH学園の開校に向けて仕事を致しました。この場所に戻ってこれたことに本当にうれしい気持ちでいっぱいです。どうぞよろしくお願いいたします。

4月7日付けのY新聞で5年生のI・Sさんがスペインで開催されるサッカー国際大会に日本選抜の選手として出場する記事が掲載されました。世界を知る素晴らしい経験になることでしょう。

宝石箱の学校に

7日に始業式、8日に入学式を行いました。新入生の1年生たちが、少し緊張しながらも元気に返事をする姿を見て、私はふと、ある日を思い出しました。

あれは、まだこの学校が誕生する前、準備が本格的に始まった頃のことでした。



た。その日、私のもとに一通の封筒が届きました。差出人は、新設されるH学園校歌の作曲をお願いしていた音楽家の先生。封筒には、楽譜と丁寧なお手紙、そしてピアノ伴奏だけが入ったCDが入っていました。

「詩のイメージを壊さないように作りました。今回は伴奏だけですが、歌入りのCDも後日お届けします。」

詩はすでに、地元の詩人の先生をお願いして完成していました。作曲の先生と詩人の先生は、地域の風景や人々の姿を見つめながら、共に言葉とメロディーを紡いでくださったのです。

ちょうど翌日には、校歌について話し合う準備委員会が開かれる予定でした。その場で歌入りのCDを委員の皆さんに聴いていただきたかったのですが、それは叶いそうにありません。私は音楽には詳しくありませんが、どうしても伝えたくて、その晩、自宅でCDを再生しながら、歌詞を追いかけて何度も歌いました。音程を確かめながら、夜遅くまでひとりで繰り返し。今思えば、なんとも不器用で、少し滑稽だったかもしれません。

そして翌日、会議の席上、私はCDプレイヤーを持ち込み、勇気を出して、ひと

りでH学園の校歌を歌いました。緊張で声が震えましたし、恥ずかしさも重なります。でも、それでも心の中には、きっとこの歌がいつか、子どもたちの声で響き渡る日が来るという希望がありました。

平成27年4月5日に開校式を迎え、児童生徒たち全員による初めての校歌斉唱のときには、胸がいっぱいになりました。式の中で、当時の9年生であった生徒代表のO.Kさんが、誓いの言葉を述べました。



「私たちにとって、この新しい校舎は宝石箱のようです。でも今の私たちは、まだ宝石ではありません。みんなで磨き合って、きらきら輝く宝石のような人になります。1年生から9年生まで互いに磨き合い、日本一の学校をつくっていきます。」

新しい校舎を「宝石箱」と表現し、自分たち自身を「原石」として捉え、磨き合うことで輝きを放とうとする誓いは、まさにこの学校の原点であると感じました。この誓いの言葉でH学園は初年度をスタートさせました。

そして令和7年度の今年の入学式—。

あの日一人っきりで歌った歌が、今年も子どもたちの声で、体育館に響きました。あのときの恥ずかしい記憶は、今でも私の心の宝石箱にしまわれた、かけがえのない思い出です。

久しぶりに聞いたH学園の校歌の歌声に背中を押されるように、私はまた、10年ぶりに新しい始まりに立ち会うことができました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp